# 学校経営推進費　評価報告書（２年目）

**標記について、下記のとおり提出します。**

**１．事業計画の概要**

| | |
|---|---|
| **実施課程名** | **全日制の課程** |
| **取り組む課題** | **英語教育の充実** |
| **評価指標** | **・実用英語検定準２級以上合格者の割合**<br>**・実用英語検定２級以上合格者の割合**<br>**・TOEIC&TOEICSWの目標スコアの達成率** |
| **計画名** | 「クラスサイズ克服とパーソナルサポート充実による英語４技能向上計画 |

**２．事業目標及び本年度の取組み**

| | |
|---|---|
| **学校経営計画の中期的目標** | （１）教育力の向上<br>①６年一貫校の強みを活かし、中学校ではまず基礎学力と学習習慣の確立を図る。特に積み重ね教科である、英語と数学で複数教員による習熟度別授業を取り入れ、「できない」という意識をなくす。<br>②将来的に生徒用デジタル教科書の導入や、オンライン教材などを効率的に授業内で活用するための環境整備の基盤として、住吉幼少中高全体のネットワークの再構築を検討する。 |
| **事業目標** | Career（キャリア）・Art（アート）・English（イングリッシュ）を教育の柱として打ち立て、伝統ある「力の教育」を具体的な形で強化していく。本校のこの教育理念は、文系・理系・音楽系・美術系という多様な興味を持った生徒を育てるヴェルジェ（フランス語で果樹園を意味する）コースと、関西学院大学との提携コースである関学コース、両コースで追求されるものである。中高大10年一貫教育となる関学コースでは特に、英語の力を、生徒たちが将来21世紀の世界で活躍するための基礎力として重要視している。進学先となる関西学院大学は、2013年度からスーパーグローバル大学（SGU)に認定されており、高い英語力を備えて入学した生徒たちにとって理想的な教育・研究の場となっている。<br>2009年の関学コース開設以来、本校では英語力の向上に取り組んでおり、一定の成果を上げてきている。CEFR（外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ共通参照枠）に照らし合わせると、「基礎段階の言語使用者」と位置づけられる「A２レベル」まではほぼ達成してきている。それをもう一歩進め「自立した言語使用者」となるための「B１レベル」へと生徒たちの英語力を高めて大学へ送り出すことで、大学入学後の更なる活躍を推し進めたい。大学入学後の資格検定取得率・GPA・国際交流志向性等を調査することで、大学入学後の発達状況を追跡調査し、高大連携の効果的な指導法をも探ることができるであろう。「英語力評価及び入学者選抜における資格・検定試験の活用促進について」（文部科学省初等中等教育局長及び高等教育局長）における「各試験団体のデータによるCEFRとの対照表」に挙げられた資格試験では、スピーキングとライティングというアウトプット力（発信力）を計測する試験が網羅されている。従来の日本の英語教育で充分に伸ばしきれいてない発信力向上が重視されていると考える。このスピーキングとライティングという技能を指導するに当たり、最も大きな障壁のひとつが、大きなクラスサイズである。「少人数指導」および「個別指導」が充分になされなければ、より多くの生徒が英語で発信する機会を享受し、正確な発信力を習得することは困難である。<br>しかしそれを教員数の増加で実現するのは、特に私学においては難しい面も多い。本事業では、ICT機器を効果的に活用し、教員のICT活用能力を高めることで、クラスサイズの問題を克服し、生徒の英語による発信力を飛躍的に向上させ、その成果を英検の合格者数とTOEIC&TOEIC-SWの得点率で実証する。 |
| **整備した設備・物品** | ①多人数クラスで個別指導を可能にするICTソフトウェア・ハードウェア　②自学自習用アプリケーション　③生徒用ICT機器（タブレット型パソコン1クラス生徒数および予備45台・関連充電機器・移動式管理庫）　④生徒検定受験料　⑤追跡調査関連費用および統計処理ソフトウェア・ハードウェア |
| **取組みの主担・実施者** | 取組みの主担：英語科　　取組みの実施者：「英検・TOEIC」「英語演習」担当教員 |
| **本年度の取組内容** | ・４技能のうち、教室内で個別指導に充分に時間がとりにくいリスニング・スピーキングのスキルを高めるために、Studyサプリ Englishを採用した。高３の登録クラス（２クラス83名）では、生徒たちは、オリエンテーションでねらいや使い方などの説明を受けた後、レベルチェック、トライアルを経て、現段階でのレベルより、各自、少し高めの目標設定をし、各々サプリの課題に取り組んだ。<br>・ライティング活動としては、生徒が個々にタブレット端末でライティングを行い、教師は、生徒のライティングをリアルタイムで閲覧しながら、個々に助言・指導を行った。従来は、歩き回りながら個別指導を行っていたが、効率が悪い上、手書きのライティングを読み解くのに時間がかかったりすることもあった。クリックひとつで素早く生徒のPC上のライティングにアクセスできるため、より頻繁に、かつ時間をかけて助言・指導を行うことができた。その成果もあり、英検２級取得率が大きく上昇した。 |
| **成果の検証方法と評価指標** | 検証対象生徒 82名（高校３年生・スタディサプリEnglish利用）<br>「実用英語技能検定」準２級・２級の取得率向上<br>「TOEIC&TOEIC-SW」高校生平均を上回ること<br>高校生平均：Listening & Reading 415・Speaking 117.9・Writing 125.8)<br>（http://www.iibc-global.org/library/default/toeic/official_data/pdf/DAA.pdf）<br>※前年実施した「TOEFL junior Comprehensive」は学校での実施が廃止されたため、今年度はTOEICを実施。 |
| **自己評価** | ※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）<br><br>2017年２月「実用英語技能検定」<br>・準２級取得率99%（前年98%）・２級取得率77%（前年73%）<br>2016年7月「TOEIC&TOEIC-SW」<br>・Listening & Reading 平均641.3（最高990）・Speaking 平均110.2（最高190）・Writing 平均133.8（最高190）<br><br>スピーキングとリスニングをスタディサプリEnglishにより個別に練習できたことは、生徒のスキル向上に大変役に立った。その結果、もう一つのProductive Skillとしてのライティングの力が実際に大きく伸長した。その結果、本年度よりライティング試験が導入された英検２級について、リーディング力が昨年生徒より平均して同等またはそれ以下と評価される本年度の生徒集団の取得率が、昨年を上回ったひとつの要因と考えられる。（◎）<br><br>個々の生徒に応じたレベルで、個別に取組むことができる環境は効果的なものであったが、無線ネットワークに大きな負荷がかかり、フリーズすることが多かった。対策として、負荷の大きいプログラムは人数を時間ごとに区切って活動させた。より自由な学習環境を与えることができるのが理想であった。これは主にスピーキング活動の指導で活用したもので、ネットワーク環境がより充実していれば、TOEIC-SWにおけるSpeakingの得点はさらに上昇していた可能性がある。（○）<br><br>今年度より、英語検定にライティング試験が導入され、生徒が論理的に考え、それをアウトプットする力が求められる際に、このタブレット型パソコンにより、演習が量的に豊かにできたことはメリットがあった。英検準２級・２級の取得率向上に寄与した可能性が推測できる。(○) |
| **次年度に向けて** | 前年までの指導を踏襲しつつ、より効果的な学習ソフトを活用し、スピーキングとライティングのアウトプット量を増加させる。英検取得率のさらなる向上を図る。より学校実施が円滑に進むGTECの活用を検討する。 |